

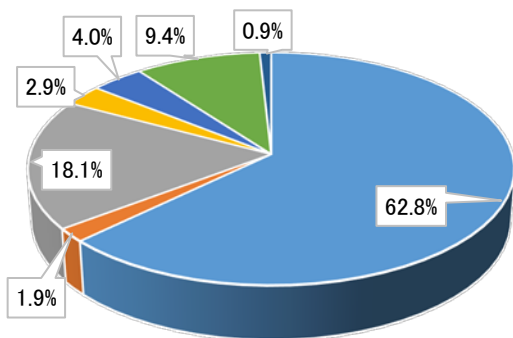
3 経済状況等

- Q18 主に授業料はどこから支払っていますか。
- Q19 主に授業に必要な図書費や教材費はどこから捻出していますか。
- Q20 主にサークル活動費や遊興費などはどこから捻出していますか。
- Q21 奨学金を申請しない理由はどれですか。
- Q22 授業料免除を申請しない理由はどれですか。
- Q23 授業料免除・奨学金を受けることで役に立ったと思うことは。

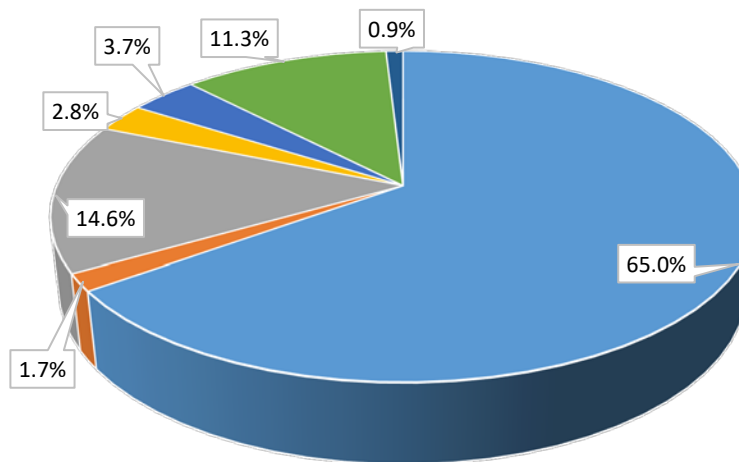
Q18 主に授業料はどこから支払っていますか。

授業料の支払いについて、主に父母からが65%で最多あった。一方で、奨学金から（14.6%）と授業料免除（11.3%）を合わせると全体の1/4（約25%）にあたった。この値がここ数年でどのような経緯を示しているのか、継続的に検討する必要がある。

平成28年度調査



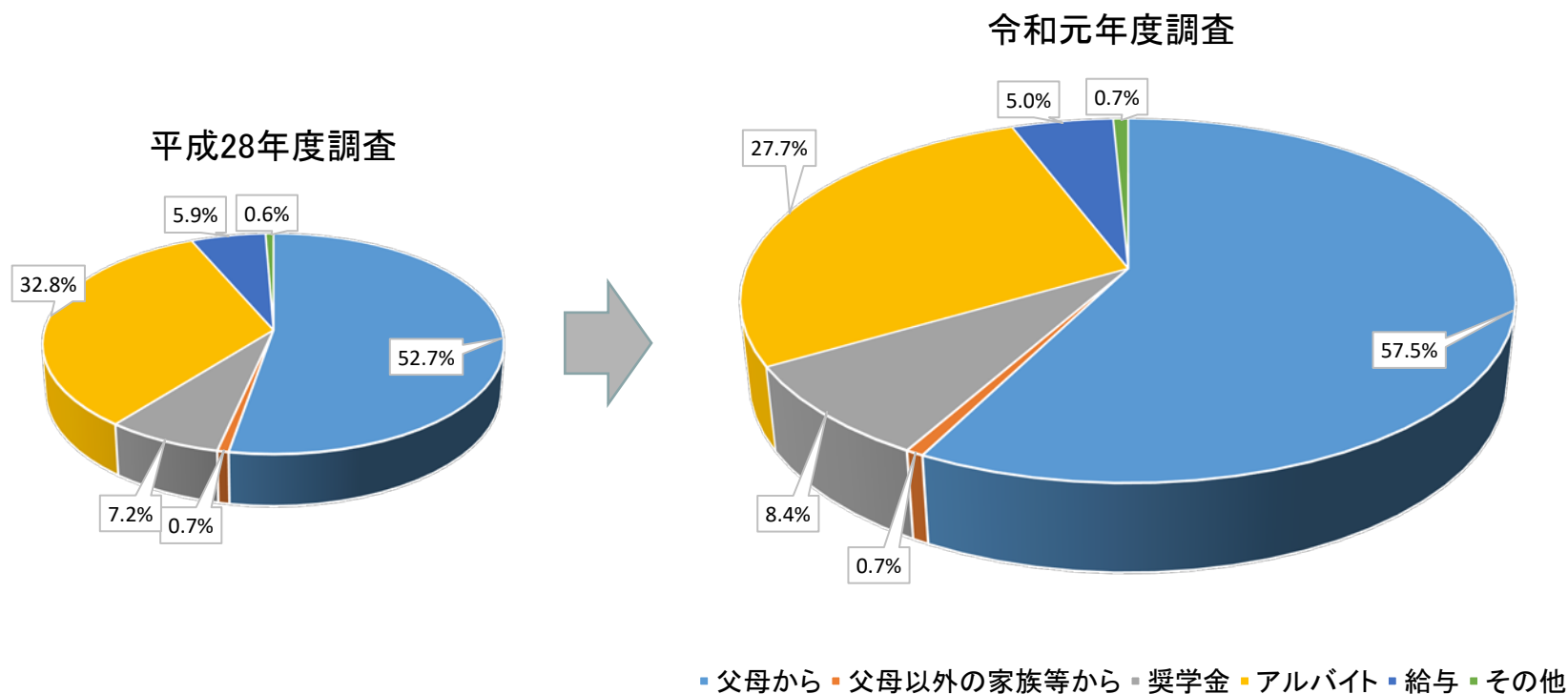
令和元年度調査



- 父母から
- 奨学金
- 給与
- その他
- 父母以外の家族等から
- アルバイト
- 授業料免除を受けている

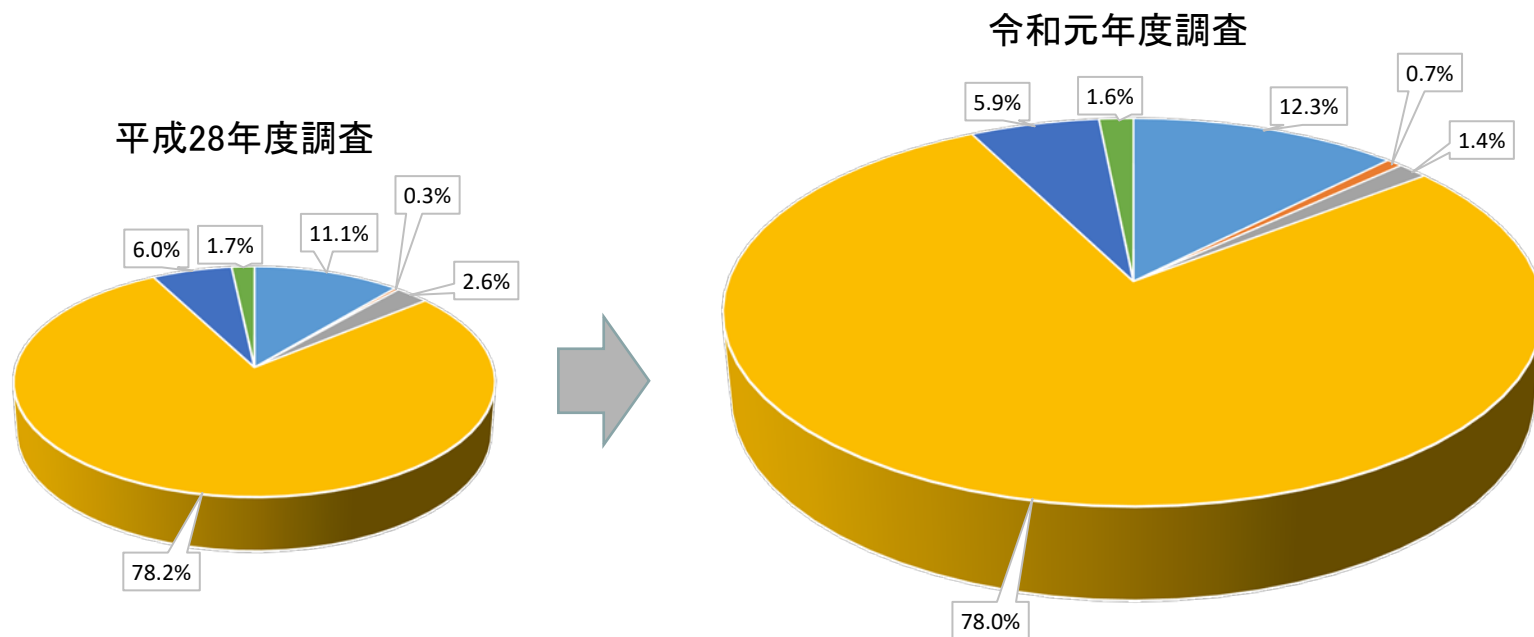
Q19 主に授業に必要な図書費や教材費はどこから捻出していますか。

授業に必要な図書・教材費について、父母からが57.5%であった。一方、自分自身で捻出するアルバイト（27.7%）、給与（5%）と奨学金（8.4%）が約40%であった。この比率については、実際の費用が増加しているのか、実情を踏まえた検討の余地がある。



Q20 主にサークル活動費や遊興費などはどこから捻出していますか。

学生の活動に関わる経費について、アルバイト（78%）と給与（5.9%），奨学金（1.4%）で約85%となり，自分自身でその費用を捻出していることが伺える。

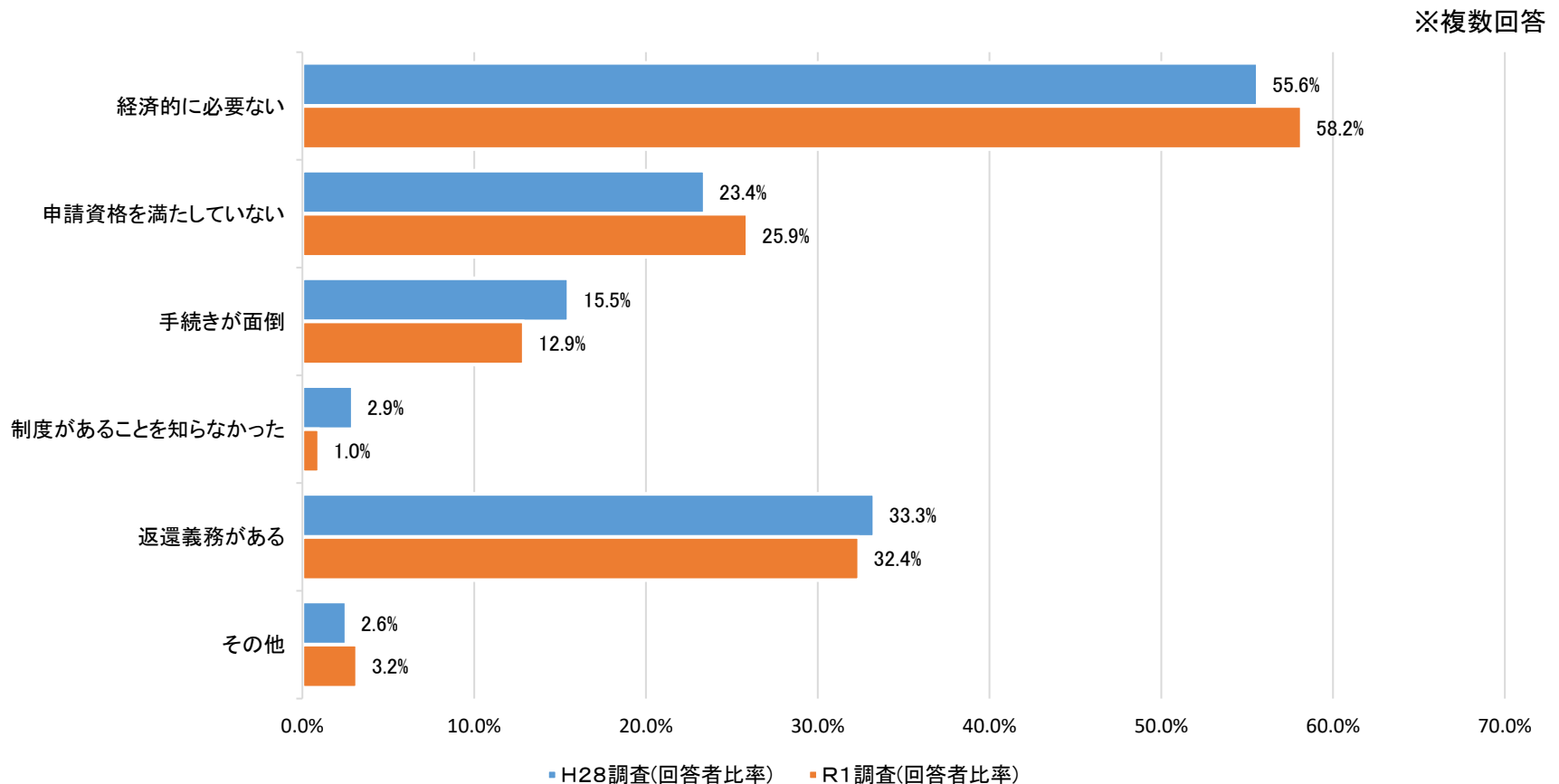


■ 父母から ■ 父母以外の家族等から ■ 奨学金 ■ アルバイト ■ 給与 ■ その他

Q21 奨学金を申請しない理由はどれですか。

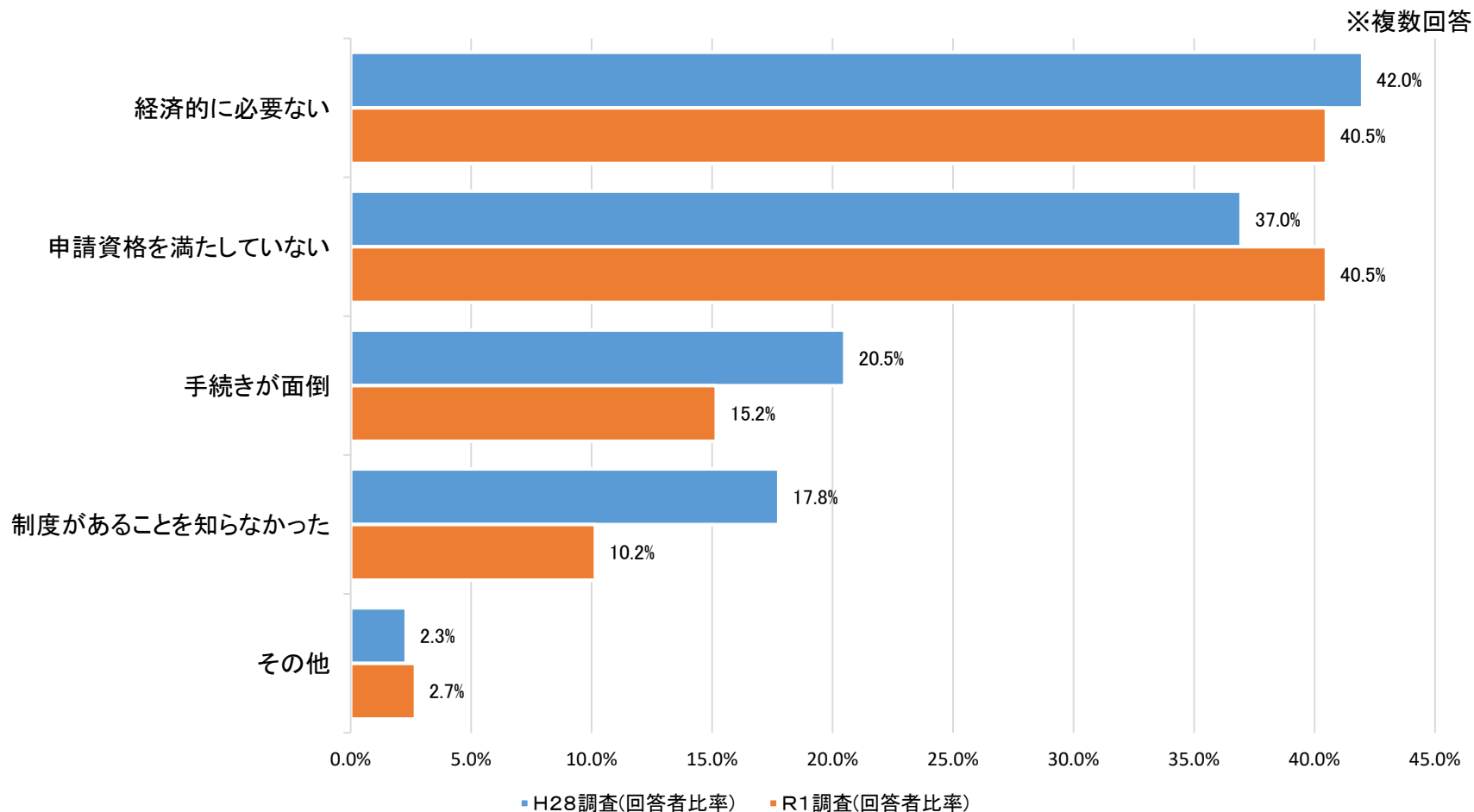
学生の就学機会を保障するためには、ここ数年の経済動向と合わせて、学生自身をとりまく経済状況を検討することが求められる。

奨学金を申請しない理由としては「経済的に必要がない」「申請資格を満たしていない」で約84%ある一方で「手続きが面倒」も約13%あった。「返済義務」を考慮した際に、やはりその後に申請したケースなどについて追跡検証することも有効だと考えられる。



Q22 授業料免除を申請しない理由はどれですか。

授業料免除の申請をしない理由については、「経済的に必要がない」「申請資格を満たしていない」が大部分をしめ、前回調査以降、経済状況がよくなっていることが考えられる。
また、「制度への理解不足」やその他の意見として「親の意向」などが挙げられる。



Q23 授業料免除・奨学金を受けることで役に立ったと思うことは。

授業料免除と奨学金については、家計への負担減が挙げられた。その良い影響として、アルバイト等への時間を低減させ、学生自身の時間の確保があり、部活動や友人との交友時間の増加が挙げられた。

